

平成維新フォーラムのご紹介

平成維新フォーラム

運営担当 山本明夫

会員の皆さんには「平成維新の会・東京エリア会報」のところに、3回連載で「全国を結ぶ通信ネットワーク」と題して平成維新フォーラムのご紹介をした山本です。この平成維新フォーラムが大前研一代表と会員を結ぶメディアとしての新しい位置付けに生まれ変わろうとしていますので今月の生活者通信の紙面を借りてこの動きをご紹介します。

この原稿を執筆している時点（9月中旬）では準備中ですが、生活者通信が皆さんのお手元に届くころには今回ご案内する姿の「平成維新フォーラム」が正式にスタートしていると思います。

これまでの経過

平成維新の会では発足当初から会員相互のネットワーク化をはかる手段として大前さんが提唱した「電子の根」という構想を持っていました。会員同士のコミュニケーションをはかる手段として同報FAXや電話会議などの手段を有効に活用していこうという考えです。この構想の一部としてパソコン/ワープロ通信も手段の一つとして取り上げられてきました。

パソコン通信の中で大手の一つであるNIFTY-Serveというネットワークを利用して会員の相互交流を図ることを主な目的として、一昨年（1997年）の始めころから小さな連絡網がスタートしました。それが成長して6月からは「維新ネット」という名前の会員むけの情報基盤がスタートしました。この「維新ネット」は一昨年（1997年）の6月から昨年（1998年）の9月まで1年と少々（約1年）の期間、会員支援センターのスタッフによって運営され全国の会員のコミュニケーションの重要な役割を果たしてきました。

そして昨年（1998年）の9月から「平成維新フォーラム」という新たな仕組みに発展して来ました。この「平成維新フォーラム」は従来の「維新ネット」の一部を会員以外の人でも利用できるように開放した形の通信サービスになっています。これは、従来は会員支援センターのスタッフによって運営されていましたが、6月末の支援センターの解散に伴って会員のボランティアが運営する形態に変わりました。

また、現在ではNIFTY-Serveの「平成維新フォーラム」以外に、PC-VANとかインターネットなどに「平成維新」のコーナーをボランティアで開設する会員も出てきました。しかし従来の経過もあって、内容的に一番充実しており、大前さんとの結び付きも一番強いのが「平成維新フォーラム」です。

フォーラムの概要

以前の「東京エリア会報」でも若干ご紹介しましたが、このフォーラムに入ることによって利用できるサービスをご紹介します。パソコン通信をご存じの方でしたらNIFTY-Serveの「フォーラム」とかPC-VANの「SIG」というサービスをご存じだと思います。これらは特定のテーマに関して興味や関心を持っている人が集まって情報交換をするためのサービスです。そして「平成維新フォーラム」は、このNIFTY-Serveのフォーラムの一つです。ですから「平成維新フォーラム」は「平成維新」に関心を持つ人々が集まる「電子的なネットワーク」です。このネットワークの中心は「電子会議室」と呼ばれるもので、以前にご紹介したとおり「電子的な文通が参加者に公開されているような仕掛け」というイメージを考えていただくと解りやすいのではないかと思います。

パソコン/ワープロ通信というのは利用したことがない方には説明するのが難しい仕掛けですが、少々ご説明します。ご存じの方はこの項は読み飛ばして下さい。

電子会議室に「発言」というのは会議室に自分の文章を書き込むことです。書き込まれた文章は他の参加者が読むことができ、賛成・反対・補足などのコメントをつけることができます。このような形で参加者同士の対話が公開された場所で続けられている、そして多くの参加者がその対話を読んで自分が関心を持っている話題には割り込んで自分の文章を書き込むというのが「平成維新フォーラム」の主なイメージです。この他にも「電子掲示板」とか「データ・ライブラリー」などのサービスがありますが、今回のご紹介では割愛させていただきます。

このパソコン・ワープロ通信のメリットは「距離や時間に制約されない」ということです。地域のイベントに参加するためには、その時間に開催場所まで出かけなくてはなりません。しかし「平成維新フォーラム」に参加するのであれば自分の都合の良い時間に自宅や職場のパソコンのスイッチを入れれば良いのです。ですから、仕事が忙しいという方や家族の世話のために家をあけられない主婦の方々などにとっては便利な道具であると言えます。また、北海道から九州まで、全国の会員が参加しているネットワークですから遠隔地の情報を早く手軽に得ることができる、また自分の文章を書き込めば相手に伝えることができるという点でも、他の手段では得られないメリットがあります。